

笑顔あふれるまちづくり

いいぬま雅子

日本共産党品川区議会議員

NO. 283. 2007. 2. 4.

品川区は待機児182人！23区で4番目

認可保育園増設は待ったなし！

いいぬま一般質問06年.11月

働く父母にとっても、結婚後も出産後も働き続けたいと願う女性にとっても保育園はなくてはならない施設です。保育園増設の求めに対し、区は、税金を使わない、父母の負担を増やす、営利企業依存型の方向を示しました。子育てが困難な時代、保育園の量も質も必要です。



子育て支援に全力投球！

「子ども医療費無料化を中学3年生まで拡大を求める」10回目の条例提案をしました。

飲食店経営のMさんの場合

五反田駅周辺の0歳児の倍率が高く入園できず仕方なく認証保育園に預けました。1日8時間の基本保育料は7万円、30分の時間延長ごとに500円追加となり、自分の稼ぎより保育料が高くなり、貯金を取り崩し認可保育園入園を待ち望んでいます。



（認証保育園とは、国の認可を受けず国の基準を下回る都独自の保育園。ほとんどが株式会社経営で保育料は自由設定。所得に配慮がされていないため低所得の子育て世代は利用でき

無職のKさんの場合

仕事を探しながら4月の入園を希望。しかし無職のため入園できず。結婚、出産を通し働き続ける女性はたったの3割。一度仕事を止めると保育園に入れず、仕事にも就けません。しかし夫1人の賃金では、2人目が欲しくても産めないと訴えます。在宅で子育てしている母親の5割が保育園に預けて仕事をしたいと希望しているのが



私の求めた質問

- ① 子育て世代の需要調査を行い、認可保育園の増設
 - ② 国、都、区は予算を増やし、基準の引き上げを
 - ③ 認証保育園の負担軽減策
 - ④ 幼保一体化施設（認定子ども園）は現行認可園水準を守ること
- 古川部長答弁（要約）**
- ① 認証保育園や定数弾力化ですでに定数拡大をし保育需要に对应している。多様なニーズに对应、預かり保育、在宅子育て支援等への転換が必要。（再

共産党が条例提案 子ども医療費無料化 品川区でも中学3年生まで拡大を！

05年2月に引き続き06年11月議会でも対象拡大を求め条例を提出しました。(通産10回提案)

理由は①子どもの命と健康を守ることは最大の願いである ②子育て支援で一番求められているのが経済的支援 ③この時点で23区ではすでに16区が中3まで拡大をしている

④東京都も10月から中3年までの医療費助成(3割負担の内1割を区と折半)を行う方向を打ち出した。国の制度としても07年4月から就学前まで3割が2割負担となるため、国からの財源もできます。ところが、自民、公明、民主は反対。今後も粘り強く提案します。

共産党区議団が全区で行なっている区民アンケートで、子育て支援策を伺う項目があります。公立保育園の増設に多数の丸がついていました。他に幼稚園保育園保育料軽減、医療費無料化の拡大、児童手当の増額、妊婦健診の無料化拡大などの経済的支援。勤務先の労働条件改善にも多数の丸がついていました。国も都も区も、少子化克服を掲げているのならば、予算を確保し、子どもを産みたい、育てたいと希望している方々の意見を率直に聞くべきです。実現まで頑張りましょう。

④品川の進める幼保一体

弁。高いとは言えないと答

②財源の確保を要望すると共に、区の判断で施設の活用を行う。保育内容は全国屈指の水準と自負している。

③保護者のニーズに応える新たな役割を持った都市保育施設。経費の一部を都区が助成している

施設は、質の高い環境を提供するもの。認定子ども園の目的、基準以上の教育、保育を実践、高い評価を得ている。(私の質問は今後の認定子ども園のことです。なぜなら原小学校の跡地に建てる幼保一体施設は、民設民営「株式会社も可」現状の国基準以下が予想されるからです。私は基準の引き下げは許されないと主張しています)

最後に、年間80数億円の財政を投入、国の制度をはるかに超え、品川区は十二分に保育事業は充実していると胸を張りました。

医療・介護の学習懇談会

2月11日(日) 午後1時半～

中小企業センター大講習室

講師：谷本 諭

主催 品川の医療と介護をよくする会

日本共産党品川区議団

区民の声を聞いてこそ少子化が改善されるのではないのでしょうか？